



2 教科担任制導入による課題

3 課題解決に向けた推進校の効果的な取組(例)

教科担任制の維持

- ▲ 運動会練習やプール指導等の時期は、毎週日課表を変えなければならない。
- ▲ 修学旅行や宿泊体験学習の事前学習・事前打合せをする時間を組むことが困難である。
- ▲ 一部の教科しか授業をしていないことに不安を抱いている教員もいる。
- ▲ 少数だが、教科担任制を否定的にとらえている児童や保護者もいるので、引き続き、理解を得ていく必要がある。

- 職員全員が全学年の日課表を持ち、突発的な空きに入れる体制を維持した。
- 高学年の週日課と担当教員が分かる表を職員室に掲示し、職員全員が把握しやすいようにした。
- 2学期から学活と総合的な学習の時間について、時間帯を学年部でそろえるようにした。
- 空き時間を利用して、特に若手教員に、自身が担当していない教科の授業を見せたり、担当していない教科の授業の特定の単元のみを行う機会を設けたりした。
- 4月から、学年全体で学習規律についてオリエンテーションを行い、徹底していくことで、児童の混乱を少しでも減らすようにした。
- 1学期末に子どもたちの声を聞き、夏季休業中に子どもの困りを整理し、改善策を2学期から実践した。
- 教科担任制の授業をPTAや学校開放日などに積極的に参観してもらうことで、保護者や地域の方にそのよさを伝えた。
- 教科担任制について、自校の教職員や保護者に対するアンケート調査を独自に行い、分析することで、さらなる取組の改善につなげた。

学習指導

- ▲ 国語や算数の教科担任は、毎日の宿題を見ることに追われることがある。
- ▲ 学年単学級での交換授業は、交換が異学年にまたがるので負担感がある。

- 宿題の丸付けややり直しは教科担任ではなく、学級担任もすることで、業務分担にもつながり、学級児童の学習状況の把握もできた。
- 異学年での交換授業では、説明文や図形の指導時期などを検討し、同じ領域を同じ時期に指導できるよう、カリキュラム・マネジメントを行う予定。

生徒指導

- ▲ 生徒指導面で、個に向き合う時間が限られ、寄り添うことも限られてしまいがちである。
- ▲ 担任している子どもへ指導をタイムリーに行いたい時にできない場合がある。

- 児童の実態に応じて、教科担任制の科目数を適切な範囲にした。
- 学年部チームで指導ができるよう、日頃から児童の学習の様子や家庭環境の変化等について、定期的に情報交換を行った。